LinkCube データ書き出し

ユーザーガイド

2024 年 1 月 25 日　第 1 版発行
2025 年 4 月 22 日　第 2 版発行
・複数 indd ファイル書出し時、書出しファイルをまとめる機能を追加
・表組イメージのままエクセルファイルに書出しする機能を追加
・テキスト、正規表現検索で画像パスを書出しする機能を追加
・クエリ名とテキスト、正規表現検索の編集機能を追加

▶ Copyright© 2013-2024 LinkCube.LLC All Rights Reserved.
本ユーザーガイドの内容はすべて、著作権法によって保護されています。
当社の許諾を得ることなく、複写、複製、転載、頒布等の二次利用を禁止します。また、内容を変形、変更、加筆修正等を行うことも同様に禁止いたします。

▶登録商標について
Adobe および InDesign は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。
Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Macintosh、Mac OS は Apple Inc. の登録商標です。
その他、製品名は一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

第 1 章

LinkCube 組版データ書き出しの基本

書き出し対象のドキュメント、書き出し項目の設定、コマ組単位の状態選択、書き出し先指定といった全体の流れを解説します。

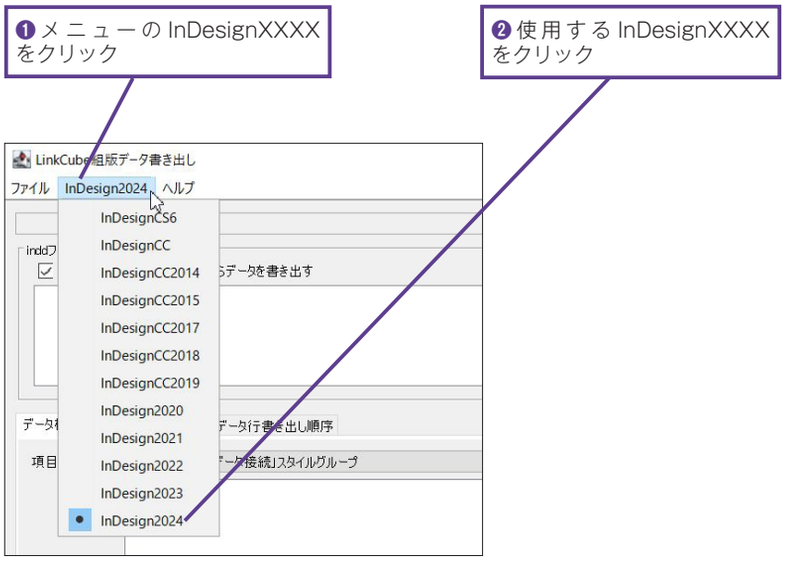
LinkCube

使用する InDesign バージョンを設定しよう

使用する InDesign バージョンを設定する

画面上部、InDesign メニューをクリックすると、使用するインデザインバージョンが選択できます。
選択したバージョンはメニューに表示されます。そのまま保持するので、１度だけ設定してください。

使用する InDesign バージョンを設定するには



データ書き出ししたい インデザインドキュメントを指定しよう

書き出したいインデザインドキュメントを指定する

データ書き出したいドキュメントを指定する方法は２つです。
１つめは、開いているアクティブなドキュメントから書き出します。
２つめは、InDesign ファイル (拡張子 indd) から書き出します。
「現在のアクティブなドキュメントからデータを書き出す」のチェックをはずすと、indd ファイルを複数追加できます。
indd ファイルをファイル一覧領域に、ドラッグ＆ドロップしても追加できます。
ファイル一覧領域から indd ファイル削除するには、ファイル一覧から選択後、削除ボタンを使用してください。

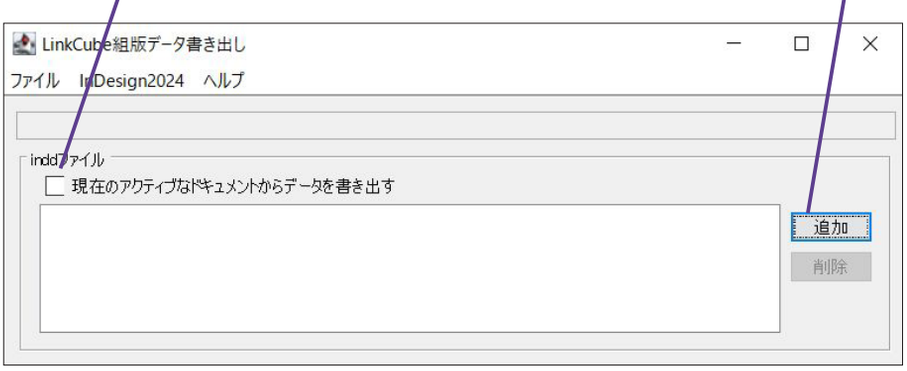
アクティブなドキュメントからデータ書き出しするには

❶［現在のアクティブなドキュメントからデータを書き出す］にチェックをいれる

複数のインデザインファイルから一括データ書き出しするには

❶［現在のアクティブなドキュメントからデータを書き出す］のチェックをはずす

❷［追加］またはドラッグ＆ドロップで、データ書き出ししたい indd ファイルを複数選択する



データ書き出ししたい箇所を設定しよう（データ接続スタイルグループ）

書き出したい箇所（文字、画像パス、表組）を設定する2つの方法

「データ接続」スタイルグループを使用する方法と、インデザインクエリを使用する方法があります。このセクションでは、「データ接続」スタイルグループの方法を説明します。インデザイン検索クエリを使用する方法は、次のセクションをご覧ください。

Tips ［データ接続］スタイルグループ

作成したスタイルが、［データ接続］スタイルグループ内に正しく作成されているか、スタイルグループを展開、折りたたみ表示して確かめてください。

文字を書き出す（段落・文字スタイルを使用）

書き出したい文字に段落スタイル、または文字スタイル「データ接続」スタイルグループ内のスタイルが、適用されている必要があります。表組セル内の文字や、アンカー付きオブジェクト内の文字も同様です。
例えば、文字スタイル「データ接続」スタイルグループ内の「価格」スタイルが適用されている文字は、項目名（列名）「価格」として書き出されます。
また、インデザインの段落・文字スタイルパネルのスタイル順が、そのまま項目名（列名）の並び順として書き出されます。

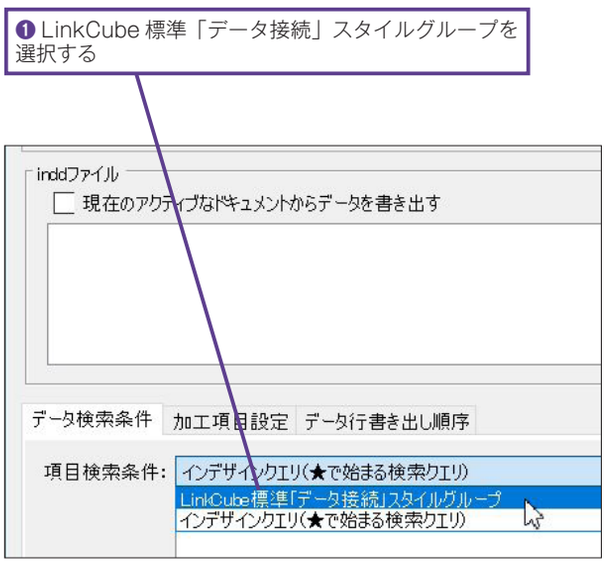
画像パスを書き出す（オブジェクトスタイルを使用）

書き出したいオブジェクトに、オブジェクトスタイル「データ接続」スタイルグループ内のスタイルが、適用されている必要があります。
例えば、オブジェクトスタイル「データ接続」スタイルグループ内の「商品画像」スタイルが適用されているオブジェクトは、項目名（列名）「商品画像」として書き出されます。

表組イメージのままエクセルファイルで書き出す（表スタイルを使用）

書き出したい表組に、表スタイル「データ接続」スタイルグループ内のスタイルが、適用されている必要があります。
例えば、表スタイル「データ接続」スタイルグループ内の「価格表」スタイルが適用されている表組は、項目名「価格表」として書き出されます。「価格表」の項目値は indd ファイル名 _ 表組 3 桁の連番 .xlsx となり、indd ファイル名 _ 表組 3 桁の連番 .xlsx ファイルも書き出されます。

データ接続スタイルグループで設定するには



データ書き出ししたい箇所を設定しよう（インデザイン検索クエリ）

検索クエリ書き出しルール

ルール１．文字を書き出したい場合は、インデザイン検索機能のテキストタブまたは正規表現タブから検索条件を設定します。

ルール２．画像パスを書き出したい場合は、インデザイン検索機能のテキストタブまたは正規表現タブからファイル名の検索条件を設定するか、インデザイン検索機能のオブジェクトタブから検索条件を設定します。

ルール３．表組イメージのままエクセルファイルに書き出したい場合は、インデザイン検索機能のテキストタブまたは正規表現タブから表組内で使用している文字（１つで OK）の検索条件を設定します。

ルール４．設定した検索条件を、クエリ保存機能を使用し★項目名で保存します。（例：★税込価格）
テキストまたは正規表現で検索する画像パス名の場合は、「_ ファイル名」でクエリ名が終わるようにします。（例：★商品画像 _ ファイル名）
表組イメージのままエクセルファイルにする場合は、「_ 表組」でクエリ名が終わるようにします。（例：★価格表 _ 表組）

ルール５．同一項目で検索条件を複数設定したい場合は、_（半角アンダーバー）以降に適当な名前を付けます。例えば検索クエリ名、★税込価格、★税込価格 _1、★税込価格 _2、いずれも「税込価格」として書き出されます。

ルール６．★が多いほうが優先順位が高くなります。例えばインデザインで以下の商品が３つあるとします。
サイズ、カラー、原産国は全て同じ書式で、カラーと原産国はある時とない時があります。
サイズ、カラー、原産国をそれぞれ項目として書出したいとします。

商品 A　　サイズ：幅 30mm、高さ 50mm
商品 B　　サイズ：幅 30mm、高さ 50mm　原産国：中国
商品 C　　サイズ：幅 30mm、高さ 50mm　カラー：ブルー　原産国：中国

サイズから始まる文字列条件で検索すると、サイズ、カラー、原産国、全てマッチするため、正しく書き出せません。（正規表現に詳しい方はできると思いますが、正規表現が複雑になります）
以下のクエリ名に（★の優先順位を使用）することで正しく書き出せます。
★サイズ　　※正規表現で「サイズ：」から始まる文字列条件（サイズ：.+）
★★カラー　※正規表現で「カラー：」から始まる文字列条件（カラー：.+）
★★★注意　※正規表現で「原産国：」から始まる文字列条件（原産国：.+）

「インデザインの★クエリを取込む」ボタン

インデザインで保存されている、★から始まる名前の検索クエリを取り込みます。
取り込んだクエリは、リスト表示されます。
リスト表示順が、項目名（列名）の並び順として書き出されます。
リスト表示順をドラッグ＆ドロップで変更できます。

「★クエリをインデザインに反映」ボタン

取り込んだクエリをインデザインに反映します（戻します）。

「インデザインの★クエリを削除」ボタン

インデザインに保存されている、★から始まる名前の検索クエリを削除します。削除する場合は、取込み後におこなってください。
削除しなくても問題ありませんが、異なる仕事で検索条件が違う場合、削除すると管理しやすくなります。
例：A 社カタログの★税込価格は、検索条件が 12 級の文字。B 社カタログの★税込価格は、検索条件が 20 級の文字など。

「左記リストから削除」ボタン

取り込んだ★クエリを削除します。インデザインの検索クエリには影響しません。

「編集」ボタン

取り込んだ★クエリを編集します。インデザインの検索クエリには影響しません。編集できるのはクエリ名と検索文字列です。
フォント、色、文字サイズなどの検索条件を編集する場合は、一度「★クエリをインデザインに反映」し、インデザインでクエリを保存しなおして「インデザインの★クエリを取込む」を行ってください。

「★+」ボタン

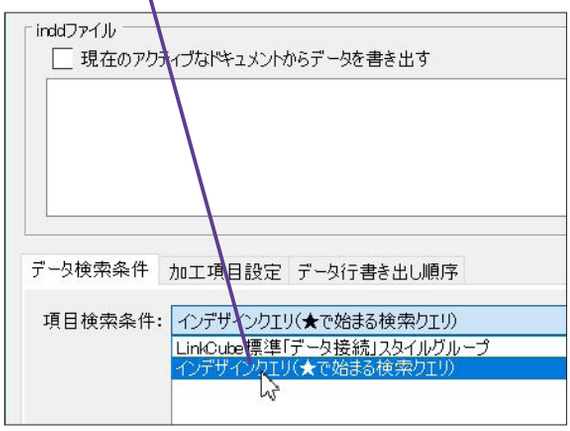
リストで選択しているクエリの★を追加します。★が多いほど優先順位が高くなります。

「★ー」ボタン

リストで選択しているクエリの★を削除します。★が少ないほど優先順位が低くなります。最低は★ 1 つです。

インデザイン検索クエリで設定するには

❶インデザインクエリ（★で始まる検索クエリ）を選択する



❶検索条件を設定後、［クエリを保存］をクリック

❷★から始まる名前にして［OK］をクリック

コマ組版の状態を指定しよう

コマの組版状態による3つの方法

１つのドキュメントに複数のコマ組がある場合、１コマ単位を識別する必要があります。１コマ単位を識別する方法は３つです。
１つめは、１コマ単位がグループ化されている状態です。
２つめは、１コマ単位が指定レイヤーの枠（四角）に、おおよそ囲まれている状態です。
３つめは、１コマ単位が指定オブジェクトスタイルの枠（四角）に、おおよそ囲まれている状態です。
おおよそ囲まれている状態とは、配置してあるオブジェクトの中心が、コマ枠に入っていれば、コマ枠内のオブジェクトとして識別します。そのため、オブジェクトがコマ枠から少しはみだしていても構いません。
上記３つの方法から、１つ選択してください。１コマ単位の状態が混在（グループ化、レイヤー枠の混在など）していると正しく処理できません。

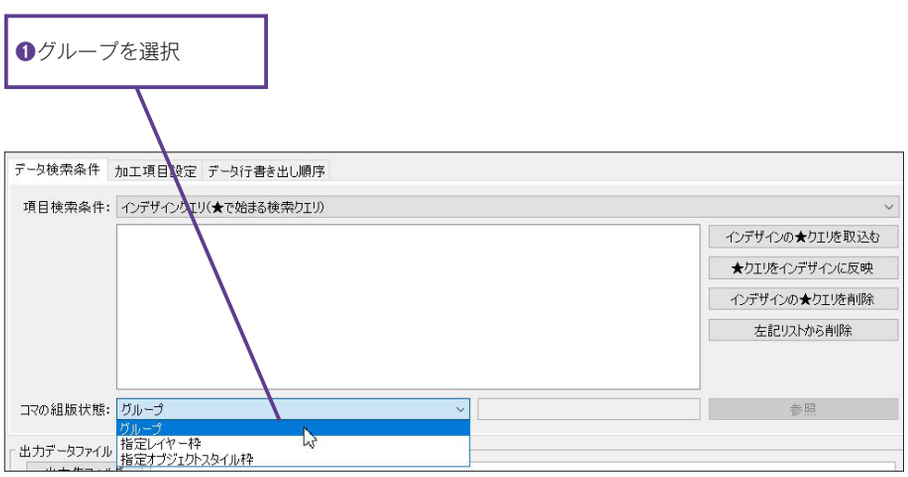
指定レイヤー枠で、対象レイヤーを指定

指定レイヤー枠の場合、レイヤーを指定する必要があります。参照ボタンでアクティブなドキュメントからレイヤーを選択するか、直接入力してください。

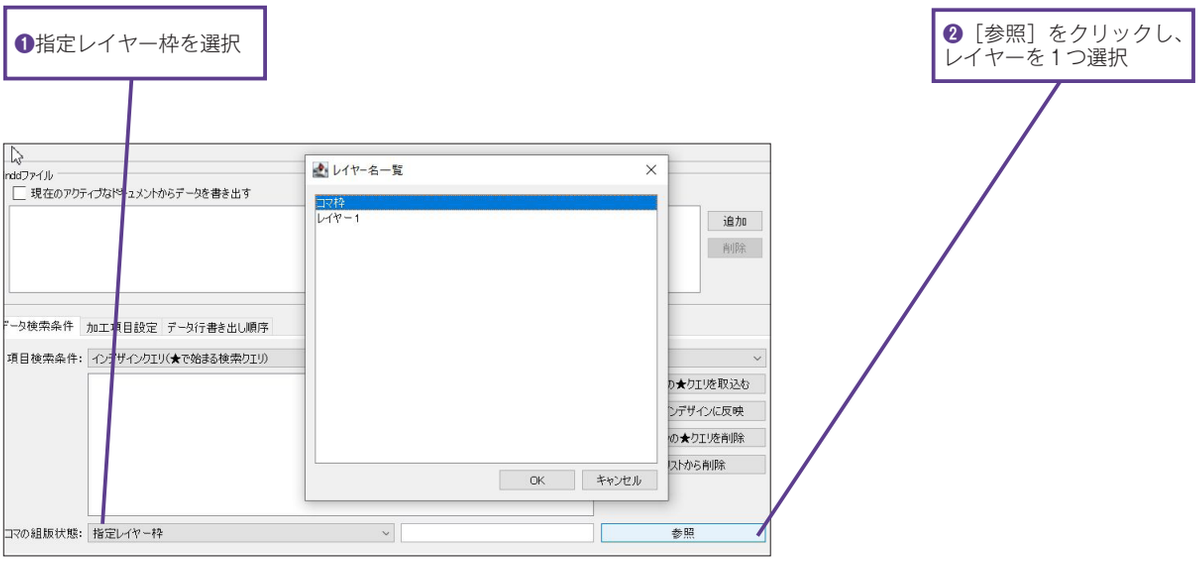
指定オブジェクトスタイル枠で、対象オブジェクトスタイルを指定

指定オブジェクトスタイル枠の場合、オブジェクトスタイルを指定する必要があります。参照ボタンでアクティブなドキュメントからオブジェクトスタイルを選択するか、直接入力してください。

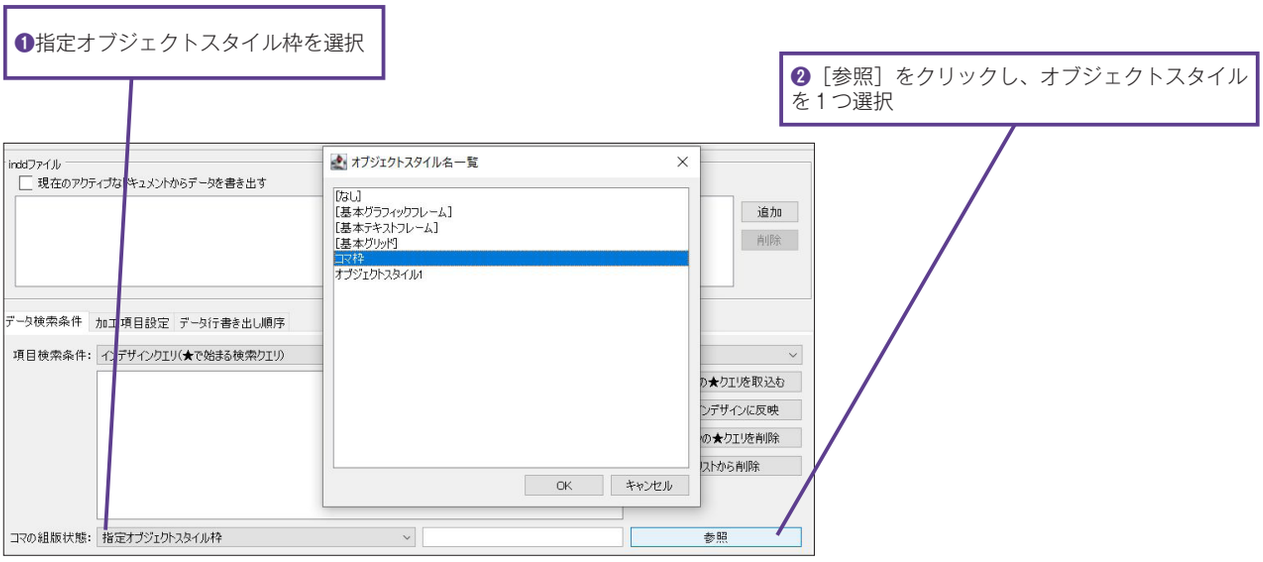
1コマ組版単位がグループ化されているときは



1コマ組版単位に枠（レイヤー）があるときは



1コマ組版単位に枠（オブジェクトスタイル）があるときは



データ書き出ししよう

複数 indd ファイルの場合、出力データファイルを1つにまとめる

チェックを入れると、indd ファイルを複数追加したときに、出力データファイルを 1 つにまとめます。ファイル名は「最初の indd ファイル名 - 最後の indd ファイル名」となります。

出力先（書き出し先）フォルダ指定

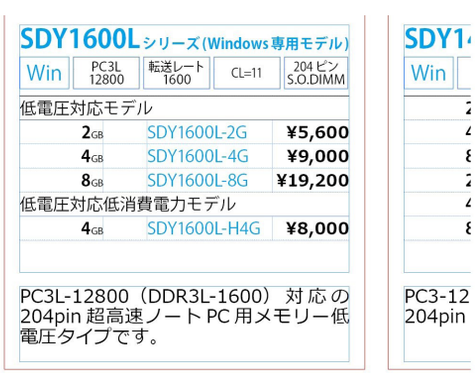
「出力先フォルダ」ボタンで、出力先フォルダを指定するか、フォルダ直接入力、または、フォルダ入力領域にフォルダをドラッグ＆ドロップしてください。

書き出しファイルの形式は3つ

書き出しファイル形式は３つです。
１つめは、txt ファイルで、項目区切りはタブ、文字コードはユニコード (UTF-16LE) です。
２つめは、tsv ファイルで、項目区切りはタブ、文字コードはユニコード (UTF-8) です。
３つめは、xlsx ファイルで、エクセルファイルです。
いずれも１行目はヘッダー行で、項目名の行となります。
また、最終列にはページ番号が追加されます。

組版データ書き出しの実行

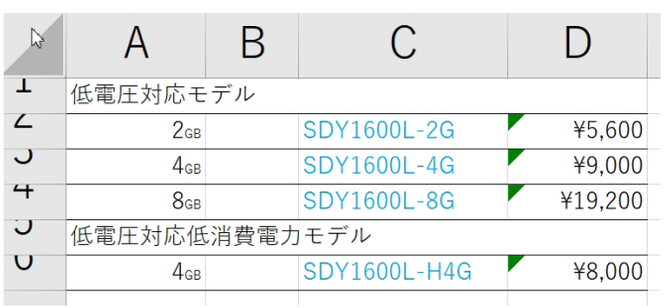
組版データ書き出し実行ボタンをクリックすると実行します。作成されるファイル名は、indd ファイル名と同名（拡張子除く）となります。
例えば、A カタログ .indd を、エクセルファイル形式で書き出すと、A カタログ .xlsx が指定したフォルダに作成されます。
図の例では、表組は６行になっていますが、データは４行で書き出します。項目名「モデル」が列データとなるためです。表組イメージのまま書き出すときは６行になります。



書き出したデータ

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	シリーズ	GB	枚数	価格	データ転送速度	データ転送能力	遅延時間	モデル
2	SDY1600L	2		5,600	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル
3	SDY1600L	4		9,000	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル
4	SDY1600L	8		19,200	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル
5	SDY1600L	4		8,000	PC3L12800	1600	11	低電圧対応低消費

表組イメージのまま書き出した場合



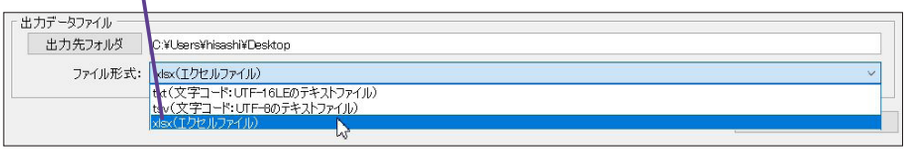
	A	B	C	D
1	低電圧対応モデル			
2	2GB		SDY1600L-2G	¥5,600
3	4GB		SDY1600L-4G	¥9,000
4	8GB		SDY1600L-8G	¥19,200
5	低電圧対応低消費電力モデル			
6	4GB		SDY1600L-H4G	¥8,000

書き出し先フォルダを指定するには

❶［出力先フォルダ］をクリックし、指定フォルダを選択

書き出しファイル形式を指定するには

❶［ファイル形式］をクリックし、書き出したい形式を選択



データ書き出しするには

❶［組版データ書き出し実行］をクリック

結果を確認しよう

正常に終了したか確認する

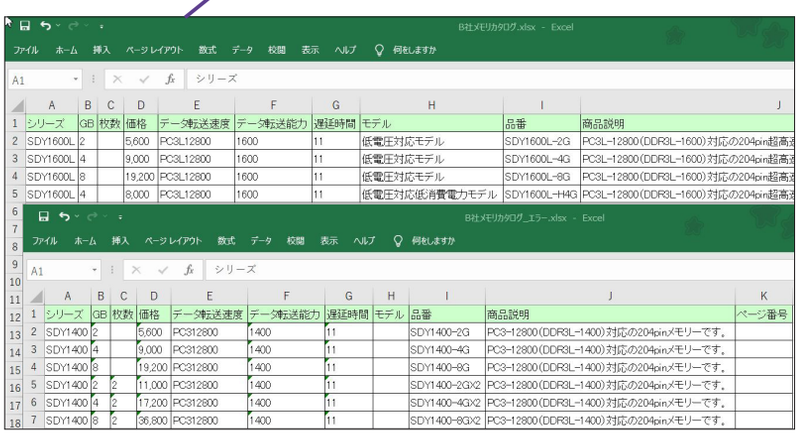
組版データ書き出しを実行すると、出力先（書き出し先）フォルダに、書き出しファイル名＋ _ エラーファイルを出力する時があります。

コマ組版状態がグループの時は、グループ化されていない書き出し条件の項目を、エラーファイルに書き出します。

コマ組版状態が指定レイヤー枠、または指定オブジェクトスタイル枠の時は、枠に入っていない書き出し条件の項目を、エラーファイルに書き出します。

結果を確認するには

❶出力先フォルダの結果ファイルやエラーファイルを、エクセルやテキストエディタで開く



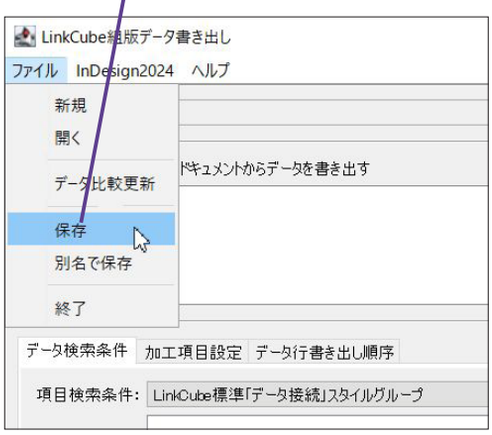
設定した内容を保存しよう

設定内容の保存し管理する

現在の設定内容を xml ファイルで保存することができます。
取込んだインデザイン検索クエリの内容もそのまま保存するため、いつでもインデザインに反映することができます。
保存した xml ファイルを読み込むには、「ファイル」メニューから「開く」し、xml ファイルを選択するか、画面上部の xml ファイル表示領域にドラッグ＆ドロップしてください。
そのほか、「ファイル」メニューの「新規」は設定内容をクリアします。「別名で保存」は設定内容を別名で保存します。

設定内容を保存するには

❶メニューの［ファイル］［保存］をクリック



第 2 章

LinkCube 組版データ書き出しの詳細

特殊文字の扱い、書き出し時のデータ加工、書き出し順序、書き出したデータを元データに更新する方法など、より詳細な使用方法を解説します。

LinkCube

特殊文字の扱い

書き出される特殊文字

インデザインで組版されている特殊文字は、以下の表のように書き出されます。アンカー付きオブジェクトも書き出されますが、制限があります。
画像のアンカー付きオブジェクトは、＜アンカー付オブジェクト :=<oLinkPath: 画像パス >> として書き出されます。
画像以外のアンカー付きオブジェクトは、＜アンカー付オブジェクト :=<oLinkPath:>> として書き出されます。（アンカー付きオブジェクト内の項目値は、書き出されます）
よく使用する、段落改行 <000D>、強制改行 <000A>、アンカー付オブジェクト＜アンカー付オブジェクト :=<oLinkPath:>> などを、書き出し時に削除したり、ほかの文字に置換する場合は、次のセクション「加工項目を作ろう」、セクション「文字を置換しよう」をご覧ください。

対応している特殊文字の一覧

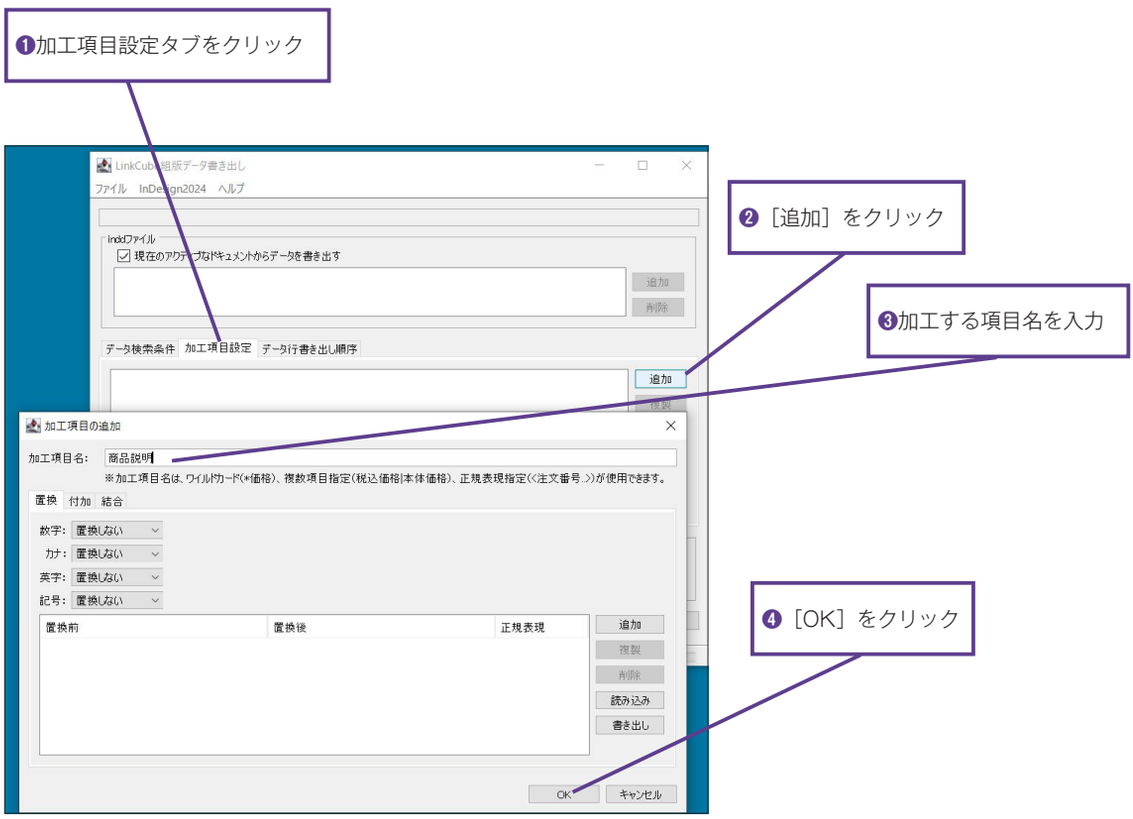
タイプ	特殊文字	書き出される文字
分割文字	段落改行	<000D>
	強制改行	<000A>
特殊文字のその他	タブ	<0009>
	右インデントタブ	<0008>
	ここまでインデント	<0007>
	先頭文字スタイルの終了	<0003>
	結合なし	<200C>
特殊文字のハイフンおよびダッシュ	EM ダッシュ	<2014>
	EN ダッシュ	<2013>
	任意ハイフン	<00AD>
	分割禁止ハイフン	<2011>
空白文字	EM スペース	<2003>
	EN スペース	<2002>
	分割禁止スペース	<00A0>
	分割禁止スペース (固定幅)	<202F>
	極細スペース	<200A>
	1/6 スペース	<2006>
	細いスペース	<2009>
	1/4 スペース	<2005>
	1/3 スペース	<2004>
	句読点等の間隔	<2008>
	数字の間隔	<2007>
	フラッシュスペース	<2001>

加工項目を作ろう

加工が必要なデータ項目分だけ作る

加工項目設定がなくてもデータ書き出しできますが、項目データを加工したい場合、設定を追加します。
加工項目設定タブをクリックすると、加工項目の追加、複製、編集、削除が行えます。
加工したいデータ項目名を、そのまま加工項目名にします。例えば、データ項目名「価格」の値に三桁カンマを挿入して書き出したい、とします。その場合、加工項目名は「価格」となります。
データ項目名「通常価格」と「特別価格」に三桁カンマを挿入して書き出したい、とします。その場合、加工項目名を「通常価格」「特別価格」の２つを追加してもよいのですが、今回は加工内容（三桁カンマを挿入したい）が同じなので、「通常価格 | 特別価格」という加工項目名にすれば、１つの追加で済みます。「|」は、「または」という意味になります。
その他の加工項目名のルールとして、「* 価格」とすれば、最後が「価格」で終わる項目名に一致します。「*」はワイルドカードです。「* 価格 | 説明 *」のように「|」と同時に使う事もできます。
正規表現で一致させたい場合は、「<>」を使用します。例えば、「特別」で始まる４文字の項目名にマッチさせたい時は、「<^ 特別 ..>」とします。
ワイルドカードや正規表現を使用した加工項目を複数追加する場合、加工項目の順番に注意してください。使用する加工項目は、上から順に検索します。一致する加工項目名が見つかれば、それ以降、検索しません。例えば、１番目に加工項目名「*」があり、２番目に「* 価格」がある場合、「* 価格」の加工内容は処理されません。全ての項目名は、１番目の「*」で一致するためです。

加工項目を追加するには



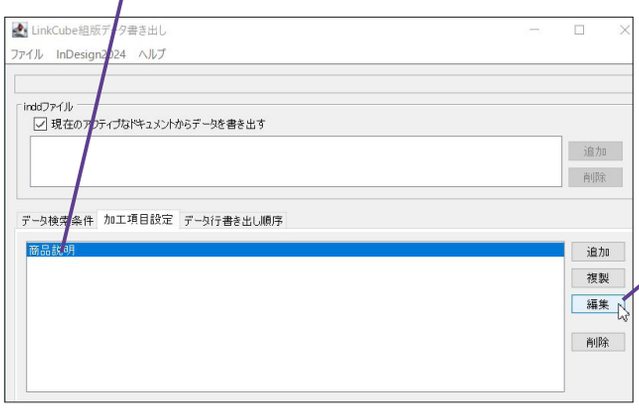
加工項目を複製するには

❶複製元にする加工項目を選択

❷［複製］をクリック

加工項目を編集するには

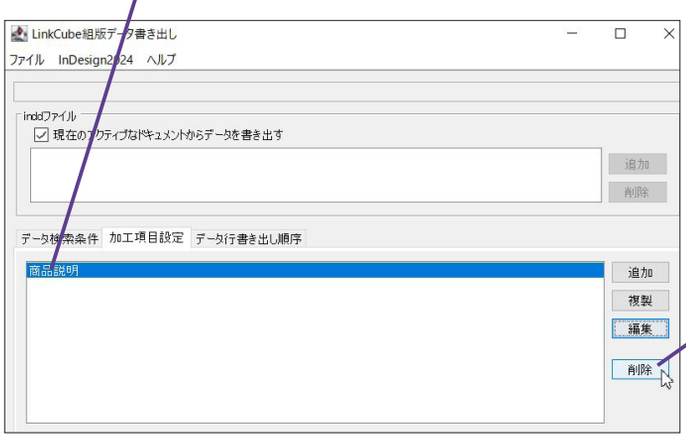
❶編集する加工項目を選択



❷［編集］をクリックするか、選択している加工項目をダブルクリック

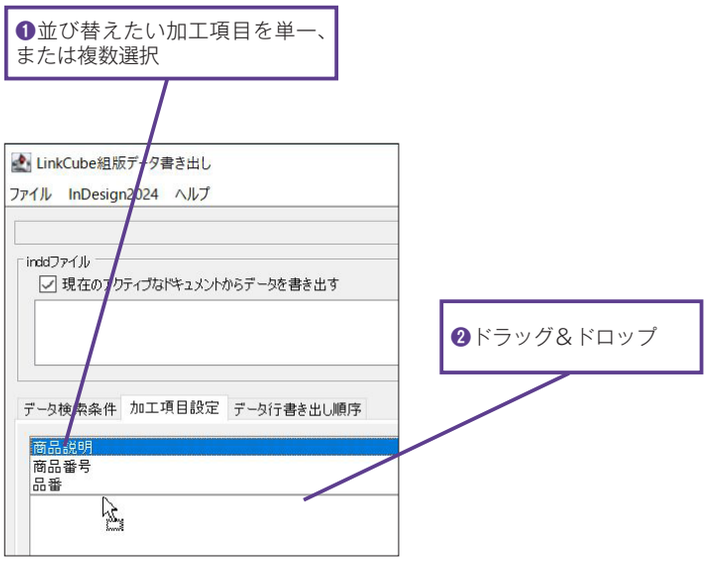
加工項目を削除するには

❶削除する加工項目を単一、または複数選択



❷［削除］をクリック

加工項目を並び変えるには



文字を置換しよう

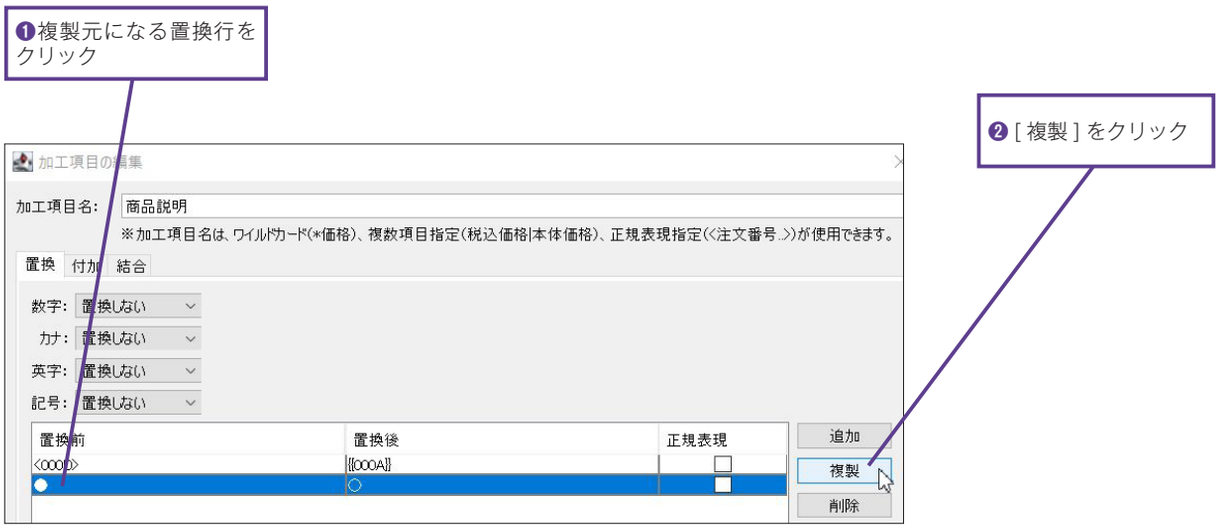
単純置換や正規表現置換で文字を置換する

加工項目の置換設定で、組版データを置換して書き出す事ができます。数字、カナ、英字、記号を半角や全角に統一したり、この文字をこの文字に、といった置換リストを登録できます。
例えば、段落改行 <000D> を削除したい場合、置換リストの置換前に <000D>、置換後に空文字（入力なし）とします。
直接入力できない置換後の文字は、{{ 文字コード }} で入力してください。
例えば、書き出し形式がエクセルで、段落改行 <000D> や強制改行 <000A> をセル内の改行にしたい場合は、置換後に、{{000A}} と入力してください。「000A」はセル内の改行文字コードです。
タブ文字を書き出したい場合は、タブ文字の文字コードが「0009」なので、{{0009}} となります。
指定文字の置換リストは、上から順番に置換処理します。１番目の置換処理結果を２番目の置換処理に、２番目の置換結果を３番目の…、と続きます。置換処理順で結果が変わる場合があるので、注意してください。
置換リストは、ドラッグ＆ドロップで並び替えること（置換処理順の変更）ができます。
置換リストで、正規表現列にチェックを入れれば、正規表現の置換機能を使用する事ができます。
置換リストのファイル書き出し、ファイル読み込みの形式は、csv、txt、tsv の３つです。
csv は文字コードが、シフト JIS、項目区切りカンマです。
txt は文字コードが、ユニコード (UTF-16LE)、項目区切りタブ文字です。
tsv は文字コードが、ユニコード (UTF-8)、項目区切りタブ文字です。

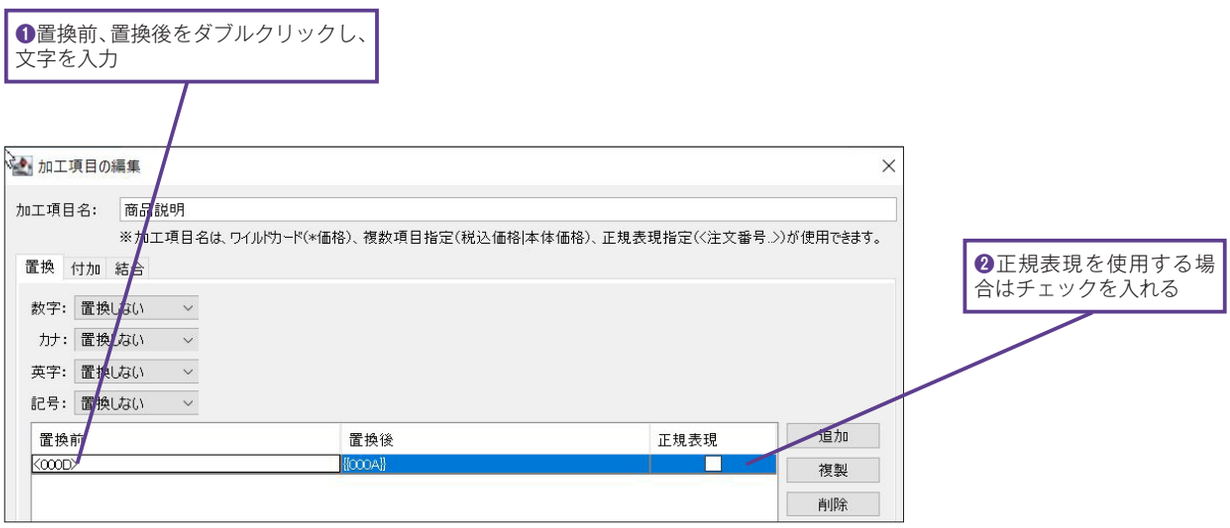
数字、カタカナ、英字、記号を置換するには

置換リストを追加するには

置換リストを複製するには



置換リストを編集するには



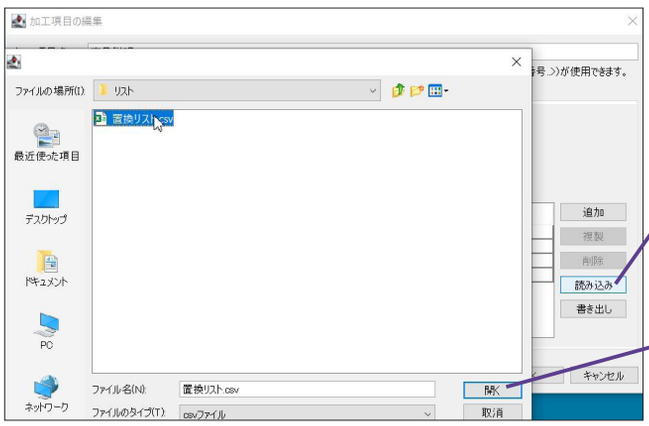
置換リストを削除するには

❶削除する置換リストを単一または複数選択

❷ [削除] をクリック

置換リストを読み込むには

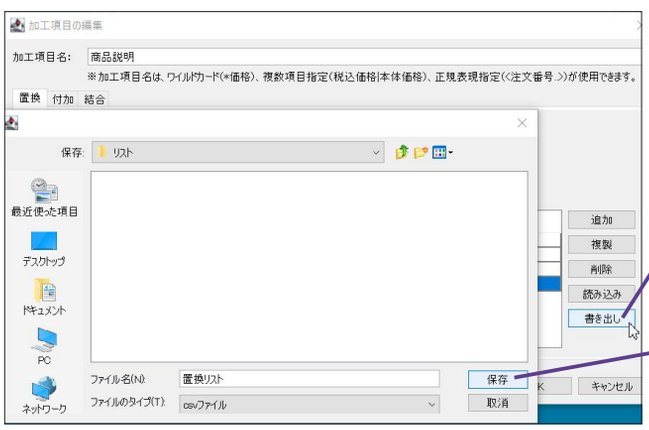
❶ [読み込み] をクリック



❷読み込みたいファイルを選択し、[開く] をクリック

置換リストを書き出すには

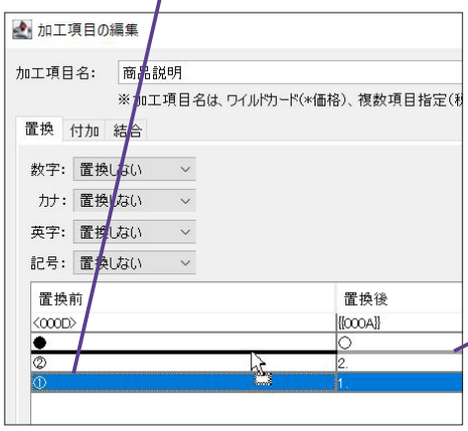
❶ [書き出し] をクリック



❷書き出しファイル名を入力し、[保存] をクリック

置換リストを並び変えるには

❶並び替えたい置換リストを単一、
または複数選択



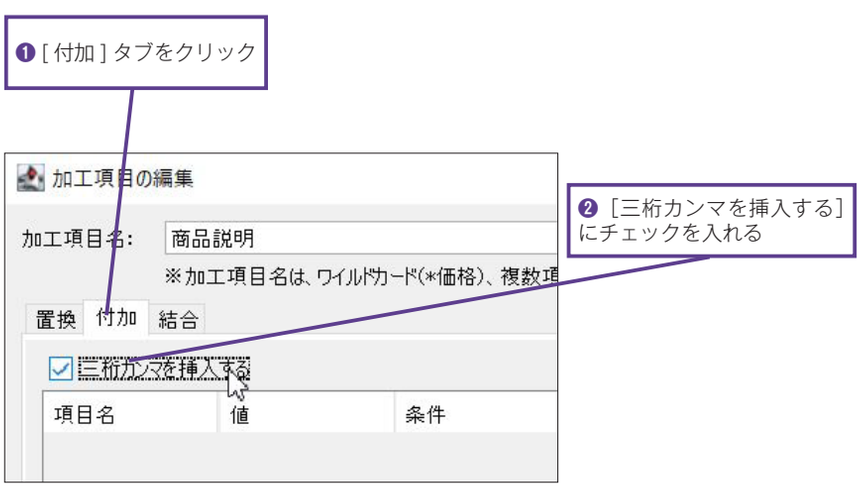
❷ドラッグ＆ドロップ

文字を付加しよう

単純付加や項目データ条件で文字を付加する

加工項目の付加設定で、組版データにない文字を付加して書き出す事ができます。三桁カンマを挿入したり、条件が一致した場合、項目データの前後に指定した文字を付加できます。
三桁カンマにチェックを入れると、項目データに、三桁カンマを挿入できる数字がある場合、カンマを挿入します。
付加文字リストには、項目名、値、条件、続き、前付加文字、後付加文字を設定できます。
項目名は、書き出しデータの項目名です。入力しない場合、現在設定中の加工項目名となります。
値は、左列の項目名の値です。
条件は、左列の値に対しての条件です。条件として、「で始まる」「で始まらない」「で終わる」「で終わらない」「と等しい」「と等しくない」「を含む」「を含まない」「条件なし」「正規表現マッチ」があります。
「条件なし」は、組版データに必ず前付加文字、後付加文字を付加します。項目名、値は無視します。
「条件なし」以外は、項目名、値、条件が一致した時、組版データに前付加文字、後付加文字を付加します。
続きは、複数条件を設定するときに使用します。続きには、「かつ」「または」「なし」があります。
例えば、項目名「価格区分」の値が " 特別価格 " の場合に、項目名「品番」の前に " ★ " を付加したい、とします。
その場合、加工項目名は「品番」
項目名は「価格区分」、値は「特別価格」、条件は「と等しい」、続きは「なし」、前付加文字は「★」となります。
複数条件の例は、項目名「価格区分」の値が " 特別価格 " で、かつ、項目名「カラー」の値が " 赤 " の場合、項目名「品番」の前に " ★ " を付加したい、とします。
その場合、加工項目名は「品番」
項目名は「価格区分」、値は「特別価格」、条件は「と等しい」、続きは「かつ」となり、追加ボタンで１行追加し、項目名は「カラー」、値は「赤」、条件は「と等しい」、続きは「なし」、前付加文字は「★」となります。
付加文字リストを複数登録する場合、順番に注意してください。付加文字リストは上から順に検索します。条件が一致すると、それ以降、検索しません。「条件なし」は、必ず一致と扱うので、付加文字リストの一番下に登録してください。
例えば、１番目に「条件なし」があり、２番目に「と等しい」がある場合、組版データが２番目の条件に一致しても、２番目の付加文字は処理されません。全て１番目の「条件なし」で一致するためです。

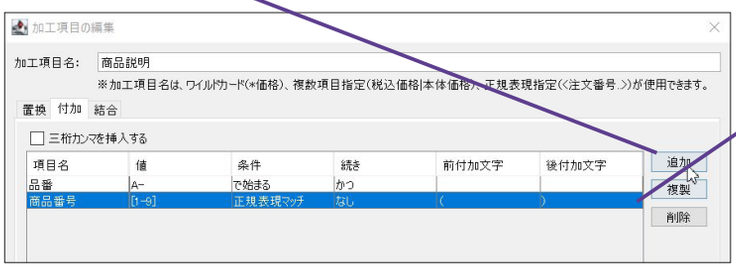
三桁カンマを挿入するには



付加文字リストを追加するには

❶ [追加] をクリック

❷項目名と値をダブルクリックで入力。条件、続きは選択。
前付加文字、後付加文字をダブルクリックで入力



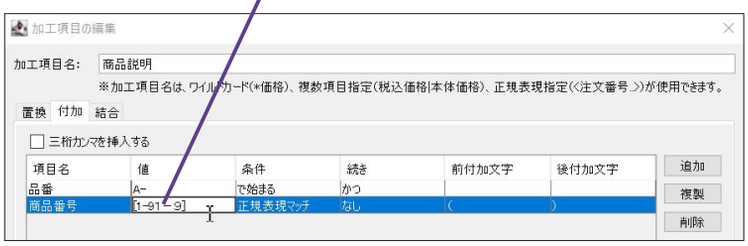
付加文字リストを複製するには

❶複製元になる付加文字行を
単一選択

❷ [複製] をクリック

付加文字リストを編集するには

❶項目名と値をダブルクリックで入力。条件、続きは選択。
前付加文字、後付加文字をダブルクリックで入力



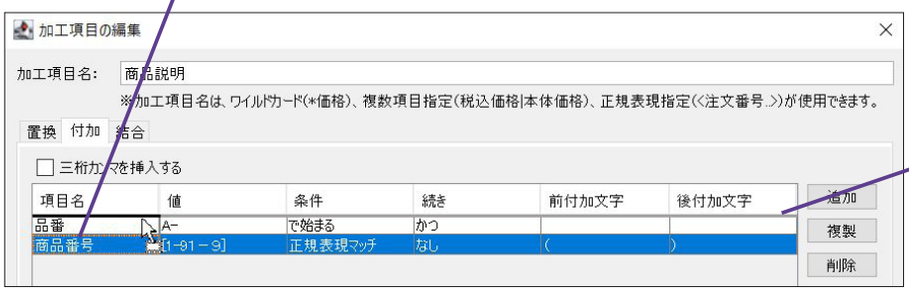
付加文字リストを削除するには

❶削除する付加文字リストを
単一または複数選択

❷ [削除] をクリック

付加文字リストを並び変えるには

❶並び替えたい付加文字リストを単一、
または複数選択



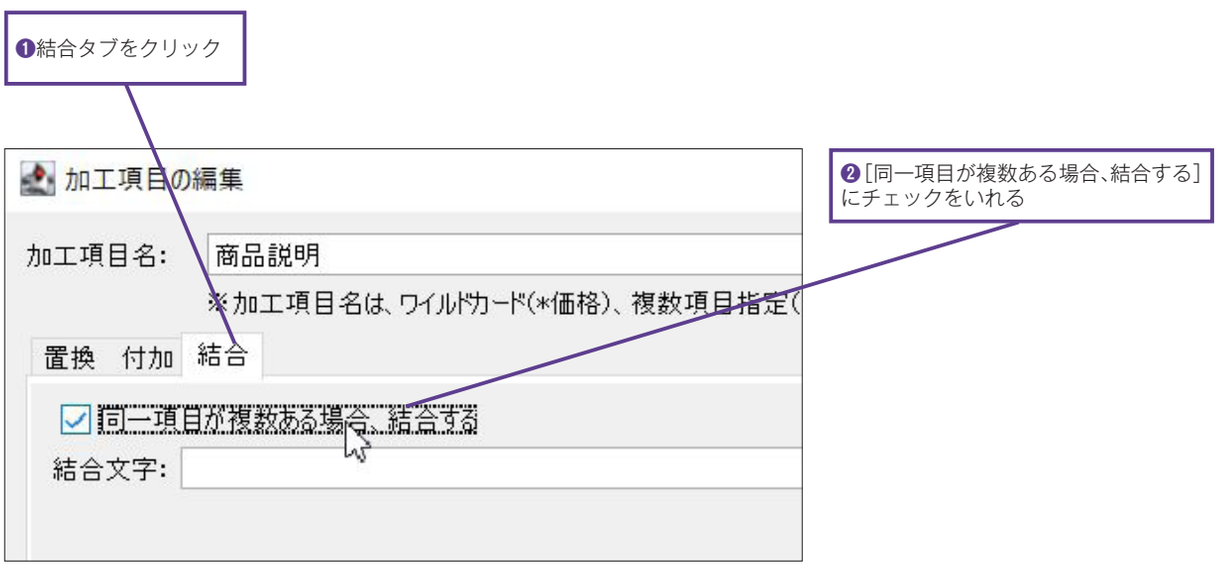
❷ドラッグ＆ドロップ

同一項目が複数ある時、結合しよう

レイアウト都合で1項目が複数フレームになっている場合

レイアウト都合で１項目だった内容が、複数のフレームにわかれた場合、そのままデータ書き出しすると複数行で書き出されます。
結合タブの「同一項目が複数ある場合、結合する」にチェックを入れると、複数内容を結合し、本来の１項目データで書き出すことができます。また、結合文字を指定すれば、複数内容の間に結合文字が挿入されます。
例えばドキュメントに１つ目のフレームが、コメント「美味しいワイン」、２つ目のフレームが、コメント「乾杯」とします。
加工項目名「コメント」とし、「同一項目が複数ある場合、結合する」にチェック、結合文字「＄」とすれば、「美味しいワイン＄乾杯」として項目名「コメント」に書き出されます。

同一項目が複数ある時、結合するには



データ書き出し順序を設定しよう

コマ単位の配置方向順で書き出す

コマ単位の配置方向順でデータ書き出しすることができます。選択できる配置方向は、左→右→下、右→左→下、上→下→右、上→下→左の４つです。
コマ単位は、グループ化、コマ枠いずれも可能です。

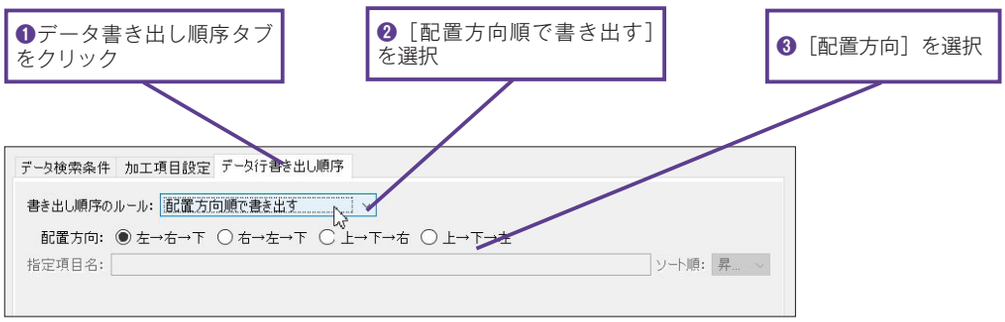
インデザインの検索順で書き出す

インデザインの検索順でデータ書き出しすることができます。文章型（アンカー付きオブジェクト含む）に有効です。

指定項目値のソート順で書き出す

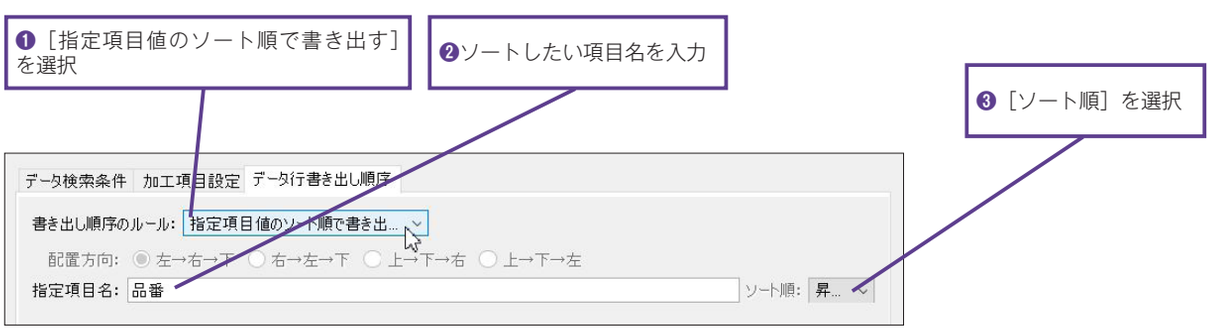
１つの指定項目名を入力し、指定した項目値の昇順、降順でデータ書き出しすることができます。
例えば、商品番号や商品型番の昇順で書き出したい場合です。

配置方向順で書き出すには



InDesign の検索順で書き出すには

指定項目値のソート順で書き出すには



書き出したデータを元データに反映させよう

書き出したデータと元データに、一意の値（重複しない値）をもつ項目（キー項目）が必要

書き出したデータを元データに反映するため、行ごとに一意の値を持つ項目（キー項目）が必要です。例えば JAN、注文コード、品番、製造番号、データベースのデータであれば、id などです。
書き出したデータと、元データのキー項目値が一致する行の、同一項目名の箇所のみ、元データを更新します。例えば、下図の赤枠部分のみ更新します。キー項目名は「品番」で、同一項目名は「シリーズ」から「モデル」までです。同一項目名の順番（列順）は、異なっていても構いません。
書き出しファイル形式と、元データ形式が異なっていても構いません。（書き出しファイル形式が xlsx、元データファイル形式が csv でも全て検索し、更新します）
書き出しファイル数と、元データファイル数が異なっていても構いません。（書き出しファイル数が 10、元データファイル数が 2 でも全て検索し、更新します）

書き出したデータ

品番	シリーズ	GB	枚数	価格	データ転送速度	データ転送能力	遅延時間	モデル	ページ番号
SDY1600L-2G	SDY1600L	2		5,800	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル	1
SDY1600L-4G	SDY1600L	4		9,200	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル	1
SDY1600L-8G	SDY1600L	8		19,300	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル	1
SDY1600L-H4G	SDY1600L	4		8,800	PC3L12800	1600	11	低電圧対応低消費電力モデル	1

一致したキー項目値

元データ

品番	シリーズ	GB	枚数	価格	データ転送速度	データ転送能力	遅延時間	モデル	メーカー	メーカーよみ	製造年月
SDY1400L-2G	SDY1400L	2		4,600	PC3L12800	1400	11	低電圧対応モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1400L-4G	SDY1400L	4		8,000	PC3L12800	1400	11	低電圧対応モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1400L-8G	SDY1400L	8		18,200	PC3L12800	1400	11	低電圧対応モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1400L-H4G	SDY1400L	4		7,000	PC3L12800	1400	11	低電圧対応低消費電力モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1600L-2G	SDY1600L	2		5,600	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1600L-4G	SDY1600L	4		9,000	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1600L-8G	SDY1600L	8		19,200	PC3L12800	1600	11	低電圧対応モデル	A電機	えーでんき	2006年1月
SDY1600L-H4G	SDY1600L	4		8,000	PC3L12800	1600	11	低電圧対応低消費電力モデル	A電機	えーでんき	2006年1月

左側ファイルリストは書き出したデータ

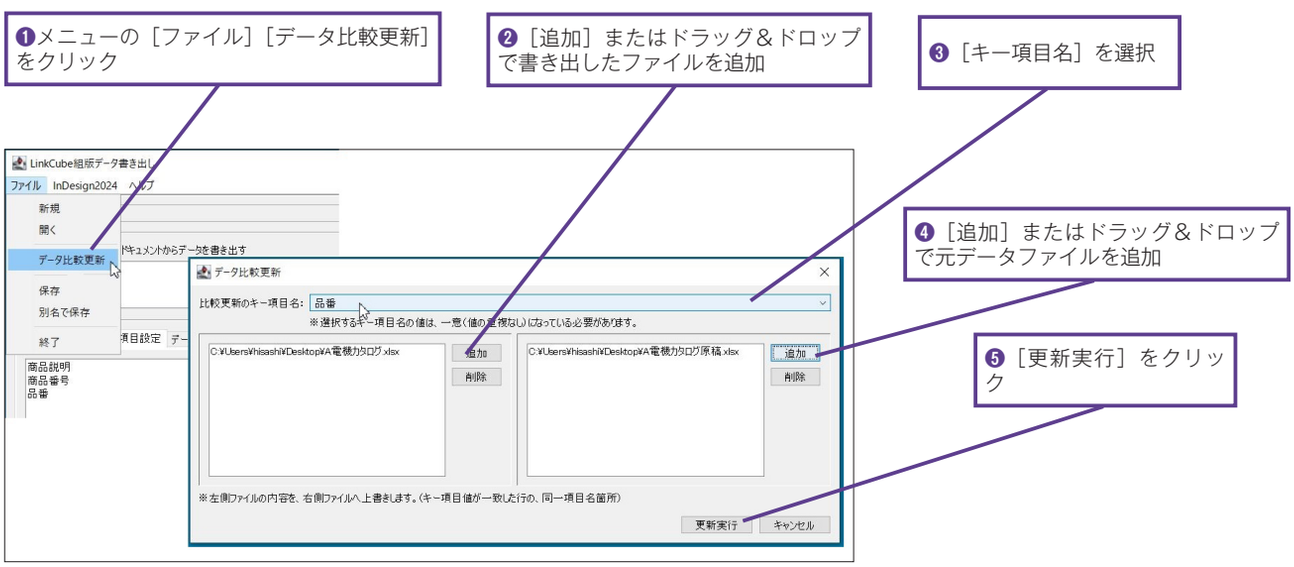
書き出したファイルを、追加ボタンやドラッグ＆ドロップで複数追加できます。
追加できるファイルは、エクセルファイル（拡張子：xls,xlsx,xlsm）と、テキストファイル（拡張子：txt,csv,tsv）です。異なる拡張子がリストに混在していても構いません。
ファイルの 1 行目を、項目名の行としてください。
最初に追加したファイル（リスト一番上のファイル）の 1 行目、各項目名を「比較更新のキー項目名」の選択候補とします。重複値のないキー項目名（列）を選択してください。

右側ファイルリストは元データ（クライアント原稿データや DB データ）

元データファイルを、追加ボタンやドラッグ＆ドロップで複数追加できます。
追加できるファイルは、エクセルファイル（拡張子：xls,xlsx,xlsm）と、テキストファイル（拡張子：txt,csv,tsv）です。異なる拡張子がリストに混在していても構いません。
ファイルの 1 行目を、項目名の行としてください。

インデザインドキュメント作成のコツ

チラシやカタログによっては、インデザインドキュメントのコマ組にキー項目値（一意の値）が組版されて

いない場合があります。解決方法として、キー項目値を組版してください。そのままでは印刷されてしまうので、プリント属性パネルの「印刷しない」または、別レイヤーにして「レイヤーをプリント」チェックをはずしてください。
データ戻しができる自動組版ソフトと比べると、あまりよくないような印象を受けるかもしれませんが、「目に見えているものが全て」というメリットがあります。
データ戻しができる自動組版ソフトは、XML タグか、フレームに独自属性を埋め込んでいます。それらは、フレームのコピーで ID 重複が発生したり、文字編集で XML タグなくなる場合があるなど、編集作業に対してあまり強くありません。
ID 属性や XML タグが壊れたものは、二度とデータ戻しができなくなります。（ソフト独自の属性を、自身で復旧不可能）
ここで解決方法としているキー項目値を組版している場合も、コピーすれば重複が発生しますが、内容修正すれば簡単に復旧できます。

書き出したデータを元データに反映させるには